

本会の活動から

第54回全国予防医学技術研究会で 本会の取り組みを発表

第54回全国予防医学技術研究会（主催 岩手県予防医学協会、予防医学事業中央会）が2月26～28日、岩手県盛岡市で開催された。

研究会では「新たな予防医学技術の向上をめざして」というテーマの下に、ミニシンポジウム「リスク管理からの業務改善を目指して」、フォーラム「ディスカッション」巡回検診受診者の現場における満足度向上を目指して」が行われた他、検査技術、新規事業、保健指導、生理機能検査、精検受診率の向上、健診業務改善、先天性代謝異常検査、細胞診、乳がん検診、胃がん検診、大腸がん検診、健康支援など多岐にわたる予防医学事業の領域から91演題の発表が行われた。



本会は5演題で発表を行った。このうち、「施設

内心電図検査のペーパーレス化」では、検査、読影、結果出力までをペーパーレスで行うことで、検査から結果判定までの期間が短縮できたことや、導入過程での問題点などを検診検査部の職員が報告した。

また、「新生児マススクリーニングにおける自動システム導入の効果」では、検体処理の自動化システムを導入したことにより、検体受付から結果報告までの処理の効率化が図れたこと、検体番号と検査結果の紐付けがより確実になったことなどを、母子保健検査部の職員が紹介した。

その他、「特定保健指導6カ月プログラムとの比較」
「本会の女性検診センターで実施された子宮がん検診の成績と追跡報告」
「学校貧血検査における新判定基準導入後の成績」と題して、それぞれ担当部署の職員が発表した。

今回は、新型コロナウイルス感染症の影響で懇親会が中止となったが、ロビーでは活発な意見交換が行われていた。

盛岡市内は最高気温が4℃前後と東京と比べて非常に寒かったが、北上川越しに見える岩手山は雪をまとった美しい姿を見せてくれた。

検診検査部 程田琴美

第289回ヘルスケア研修会を開催

健康管理コンサルタントセンターと本会が主催する第289回ヘルスケア研修会が1月29日、東京都

第27回日本CT検診学会 学術集會に参加

第27回日本CT検診学会学術集會（大会長 土田敬明・国立がん研究センター中央病院呼吸器内視鏡科医長）が2月7～8日、東京都千代田区で開催された。

今集會は、「高精度、低侵襲、高ベネフィットを目指して」をテーマに、「東京から肺がんをなくす会」の指導医でもある土田医長が大会長を務められた。

主な演題は、肺がん検診、被ばく低減、コンピュータ支援、AIなどに関するもので、特に興味深かったのは、普段、肺がん検診で撮影する胸部単純X線写真（2方向撮影）とほぼ同等の被ばく線量で、肺がんCT検診が行えるという報告であった。

もともと肺がんCT検診は、CT-AEC（自動露出機構）や逐次近似応用再構成、ディテクター（検



出器）の改良などにより、低線量で撮影を行っているが、さらに特殊なフィルターを使用することで、画像に関係しないX線の低エネルギーをカットして被ばく線量を低減するというものだ。

今後は、被ばく線量の低減や精度管理、ベネフィットなどを考慮した肺がんCT検診の検証がさらに進むと思われるが、有効性や不利益に関する研究報告や議論にも注視しつつ評価していく必要があると感じた。

放射線部三科長 草薙正典

コンパクトで環境に優しい 最新型のレントゲン車を導入

従来のレントゲン車は、外部の電源（コンセントなど）の使用が困難な場合、車に搭載してある発動発電機（発電機）を稼働させることで撮影装置を動かしている。しかし、発電機を稼働させると、排ガスや臭い、騒音などが生じるため、その対策が課題とされていた。

本会では昨年末、こうした課題の解決策として開発された「蓄電池発電システム」を搭載した胸部レントゲン車を導入した。このシステムでは発電機に換えて、ハイブリット車でも使用されているニッケル水素蓄電池を使用して発電しており、排ガスや臭い、騒音などが無い、安心・安全で環境に優しい検診車となっている。

また、従来のレントゲン車では、エアコンを使用する場合、撮影装置の電源とは別の回線から電源を取る必要がある、それができない会場では夏でもエアコンなしで撮影せざるを得なかった。受診者も検査技師も汗だくだったが、新しいレントゲン車は、



千代田区で開催された。

今回のテーマは「職域で役立つ統計の見方、考え方」。講師は健康管理コンサルタントセンター幹事の正木基文・長崎県立大学名誉教授。司会は鷲崎誠健康管理コンサルタントセンター会長が務めた。

インフルエンザワクチンの予防接種など、私たちの周りで実施されているさまざまな公衆衛生施策や健康施策には、その根拠となる統計情報があるが、こうした統計情報は情報の収集方法や分析方法によって結論が異なることがあり、産業保健に携わる専門職には、統計情報を正しく読み解き、正しく伝える力が求められる。

そこで今回は、予防医学分野での疫学や統計学に詳しい正木名誉教授に、統計情報を扱う上での注意点や効果的な活用法などについて、やさしく解説していただいた。



前日の夜にフル充電しておけば、撮影装置とエアコンが同時に使用可能なので、より快適に検査を受けていただくことができる。

さらに、検診車の車台がトラックからマイクロバスに代わったことで、車長や車高がよりコンパクトになり、狭い駐車スペースでも入れられるようになった。今後は、健診会場の状況に合わせて新レントゲン車を配車する予定である。

放射線部長 富樫聖子

令和元年度東京都先天性代謝異常等 検査連絡協議会が開催

令和元年度の東京都先天性代謝異常等検査連絡協議会（協議会）が1月24日に都内で開催され、関係者ら約30人が参加した。

先天性代謝異常等検査（新生児マススクリーニン

第291回ヘルスケア研修会
しなやかな心でストレスを管理する
「マインドフルネス」

日時 5月27日(水) 14~16時
 会場 千代田区・「星陵会館」2階ホール
 講師 川野泰周氏
 RESM新横浜睡眠・呼吸メディカルケアクリニック 副院長

●参加費 2,000円
 ●申込不要 ●定員 200人(先着順)

問い合わせ 東京都予防医学協会 広報室
 ☎03-3269-1131 内線2241、2242

第3回 ガッテン北折塾 対象者の心をくすぐる保健指導
ガッテンさせちゃう!
保健指導のテクニック——演出家はこうする

日時 6月13日(土) 10~16時
 会場 中央区・「CIVI研修センター日本橋」
 講師 北折 一氏 元「NHKためしてガッテン」専任ディレクター

●受講料 15,000円+税
 ●対象 保健師、管理栄養士、栄養士、養護教諭、助産師等

問い合わせ 日本家族計画協会(JFPA)
 ☎03-3269-4785

第59回東京思春期保健研究会
違っていても大丈夫
身長100センチママの戦い

日時 6月27日(土) 16~17時
 会場 新宿区・「東京医科大学病院」本館9階会議室A・B
 講師 伊是名夏子氏 コラムニスト

●参加費 一般：1,000円 学生：500円
 ●申込不要

問い合わせ 東京思春期保健研究会事務局
 ☎03-5275-1191

第292回ヘルスケア研修会
美味しく楽しく食べて健康に
科学的根拠に基づく食事法・ロカボについて

日時 7月8日(水) 14~16時
 会場 千代田区・「星陵会館」2階ホール
 講師 山田 悟氏 北里大学北里研究所病院 糖尿病センター長

●参加費 2,000円
 ●申込不要 ●定員 200人(先着順)

問い合わせ 東京都予防医学協会 広報室
 ☎03-3269-1131 内線2241、2242

●研修会、セミナー等は、状況により変更等の可能性があります。最新情報はHP等でご確認ください。

本会の理事会が開催

令和元年度第3回理事会が3月26日に開催された。挨拶に立った理事長の小野良樹は、本会の事業の展望について、次のように述べた。

「新型コロナウイルス感染症が拡大する中で理事会を開催させていただくことをご容赦いただきたい。来年度は、先天性代謝異常症の一つであるライソゾーム病のスクリーニング検査の試験研究が始まる。また、本会が開発に携わった脊柱側弯症の新検査機器『3Dバックスキャナー』による検診もスタート

グ」は、先天性の代謝異常等を早期に発見して治療し、子どもたちの健やかな成長につなげることを目的とした国の事業である。

本事業を円滑に実施するためには、採血から検査結果の通知に至るスクリーニング全体の精度管理とその維持向上を図ることが重要であり、実施主体の東京都と採血業務を担う病産院、検査業務を担う本会、東京都医師会から関連団体、そして治療に当たる専門医らが連絡を密にして、さまざまな問題や課題を検討する場を持つことが不可欠である。そこで2019年度から協議会が設置される運びとなった。協議会では、2017~2018年度の検査実績、新しく導入された検査機器、追跡調査などについて報告があり、より充実したスクリーニングのあり方をめぐって活発な討論が交わされた。

閉会に当たり東京都福祉保健局の渡邊登美子氏は「いただいたご意見を検討し、よりよい検査体制が取れるよう取り組んでいきたい」と語り、第1回目の協議会を結んだ。

星野京子医師が本会の保健会館クリニック副所長に就任しました



星野京子(ほしの きょうこ)医師は、1981年に獨協医科大学医学部を卒業。その後、日本大学医学部や東北大学医学部の内科学教室で研鑽を積み、日本通運健康保険組合東京病院、松下電器(現・パナソニック株式会社)健康保険組合東京健康管理センター、川口市立医療センター総合健診センター一部を経て、2020年1月に本会の保健会館クリニック副所長に就任しました。

日本内科学会内科認定医、日本超音波医学会認定専門医、日本消化器病学会認定専門医、日本医師会認定産業医、日本超音波医学会認定指導医、人間ドック健診指導医などの資格を取得しており、同クリニックでは消化器内科外来を担当しています。

休日には、美術館巡りやベランダガーデニングを楽しんでいるそうです。なんと将来的には畑仕事をするための田舎暮らし構想もあるとか。

する。従来にも増して活性化を図り、事業を進めていきたい」

その後、小野理事長を議長として、「令和2年度の事業計画・収支予算」「組織改編」などの議案が審議され、いずれも満場一致で承認された。

新生児マススクリーニング用

アミノ酸・アシルカルニチン測定用 内部標準原液セット

NeoSMAAT[®]

ネオスマート

SEKISUI



特長

- ◆ 溶液タイプの試薬で簡単調製!
- ◆ 内部標準溶液にC14:1を含有!
- ◆ 付属のカートリッジカラムで、汚れ等機器への負荷を軽減!

製品内容

製品コード	製品名(構成試薬名)	包装	有効期間	貯法
509254	アミノ酸・アシルカルニチン測定用内部標準原液セット NeoSMAAT [®]			
	(アミノ酸内部標準原液)	1mL(192検体分)×5本	12か月間	2~8℃
	(アシルカルニチン内部標準原液)	1mL(192検体分)×5本		
	(アミノ酸チェック原液)	0.5mL×1本		
	(アシルカルニチンチェック原液)	0.5mL×1本		
(カートリッジカラム)	500検体測定用×2個			

※本品は体外診断用医薬品ではありません。
 ※ご使用に際しては取扱説明書を良くお読みください。

製造元

積水メディカル株式会社

〒103-0027 東京都中央区日本橋二丁目1番3号

【お問合せ先】コールセンター：0120-249-977

<http://www.sekisui-medical.jp/>

小児健康相談室のご案内

検診で異常を指摘された子どもを対象に、専門医によるフォローアップを行っています

学校検診で異常を指摘されたけれど、近くに専門医がない。軽微な異常で治療は必要ないけれど、定期的な経過観察は必要。「小児健康相談室」では、そうした子どもたちを対象として、専門医による経過観察、生活指導を行っています。

検査や診断には費用がかかります(保険診療)。本会で学校検診を受けた方は、検査・検診時のデータを用いて診療や相談が可能です。

	腎臓病	心臓病	貧血	脊柱側弯症	肥満・コレステロール	思春期やせ症
担当医	村上睦美 日本医科大学 名誉教授	浅井利夫 東京女子医科大学 名誉教授	前田美穂 日本医科大学 名誉教授	南昌平 聖隷佐倉市民病院 名誉院長	岡田知雄 神奈川工科大学 応用バイオ科学部教授	鈴木真理 跡見学園女子大学 心理学部特任教授
外来日	第3木曜日 午前	第1木曜日 午後	第1水曜日 午後	第2月曜日 午後 第4金曜日 午後	第3水曜日 午後	第2木曜日 午後

前田美穂先生による 『貧血電話相談室』

養護教諭・保健師・看護師からの相談をお受けします(無料)

開催日：第1水曜日 14時半~15時半



問い合わせ・申し込み

公益財団法人 東京都予防医学協会 学校保健部

東京都新宿区市谷砂土原町1-2

☎03-3269-1131



人間ドックのお弁当「彩食健美膳」

2020年度のテーマは

金(筋)メダルを目指そう!

本会の人間ドックのお弁当「彩食健美膳」は、アンケートで寄せられた受診者様のご意見を参考に、管理栄養士がテーマ、メニューを考案し、毎年内容を変えています。

今年度は筋肉量アップに着目し、タンドリーチキン、サーモンのごま醤油焼き、きびなごの南蛮漬けなど、たんぱく質をしっかり(約33g)摂れる献立にしました(写真)。野菜も1日の摂取目標量の2/3程度とたっぷり。1食当たりの栄養価はエネルギー695kcal、食塩相当量3.3gです。

昼食時の講話では、管理栄養士がお弁当の内容や筋肉を減らさないための食事について情報提供しています。

●個人情報の取扱いについて

日頃より、公益財団法人東京都予防医学協会の機関誌「よぼう医学」をご愛読くださりありがとうございます。

本会では、「よぼう医学」を送付させていただいている皆様について、送付に必要な情報(氏名、住所、所属、役職など)を送付名簿として保持しております。

これらの個人情報の収集、保存、利用につきましては、本会の個人情報保護方針に基づき、厳重な管理の下に運用しております。送付名簿からの削除や変更を希望される場合には、お手数ですが、下記広報室までご連絡ください。

●送付先の変更・送付中止について

送付先の変更・送付中止を希望される場合には、広報室までお知らせください。

Eメール koho@yobouigaku-tokyo.jp

F A X 03-3269-7562

T E L 03-3269-1131



健康管理コンサルタントセンター コンサルテーションのご案内

健康管理相談を お引き受けします

健康管理コンサルタントセンターの幹事である医師が事業所、学校、各種団体の健康管理をアドバイスいたします(予約制・無料)。

お問い合わせ・
お申し込みは事務局まで

健康管理コンサルタントセンター 事務局

東京都新宿区市谷砂土原町1-2
公益財団法人東京都予防医学協会 広報室
TEL 03-3269-1131 内線2241、2242



あなたの健康づくりを全力サポート!

よぼう医学

2020 SPRING 春号 No.08

2020年4月15日発行 通巻第536号

●発行人 小野良樹
●発行所 公益財団法人東京都予防医学協会
〒162-8402 東京都新宿区市谷砂土原町1-2
TEL : 03-3269-1121
FAX : 03-3260-6900
URL : <https://www.yobouigaku-tokyo.or.jp>

●企画 広報企画委員会
●編集 広報室
●デザイン 大谷達也(有限会社アイル企画)
●印刷 大日本印刷株式会社

●『よぼう医学』は本会ホームページ(<https://www.yobouigaku-tokyo.or.jp/>)からもご覧いただけます。

※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載をお断りします。



Canon

すべては患者さんのために。

世界が直面する医療を取り巻く環境の変化。

キヤノンメディカルは、すべての命と向き合うため
革新的な技術とソリューションをご提供し続けます。

患者アウトカムの最大化とコスト最適化を目指し
医療におけるバリュー向上をお客様とともに実現します。

With Canon Medical, true innovation is Made possible.

Made possible.

Made For life

